

鶏卵 ブラジルから輸入

イフジ産業、安定供給維持

鶏卵から殻を取り除いた「液卵」を生産するイフジ産業（福岡県粕屋町）は8日、鳥インフルエンザなどの影響に伴う国内の鶏卵不足を受け、3月下旬にブラジルから輸入を始めたことを発表した。藤井宗徳社長は同日開いた決算記者会見で

「液卵はさまざまな食品に使われる『食の半導体』。何よりも安定供給を求められるが、国内では追いつかない」と述べた。

食品メーカーなどに液卵を供給している同社は、年間約12億個の鶏卵を扱っており、現在の状況が続けば



約8%がブラジル産になる見通しという。鳥インフルエンザの流行

鶏卵価格の見通しなどについて話すイフジ産業の藤井宗徳社長
 8日午後、福岡市・天神

に伴い多くの国で鶏卵不足が生じる中、同社によると、ブラジルでは流行が確認されておらず、「各国が卵の輸入をブラジルに頼る」(担当者) 状態となっている。

鶏卵を巡っては、世界的な仕入れ競争が起きており、同社は安定供給を維持

するため、取引先に「買い付けの原資」として値上げを打診。担当者によると「価格より、安定供給のニーズが高い」という。

同社によると、足元の鶏卵価格は前年の同じ時期の1・5倍超。藤井社長は記者会見で、今後の卵の価格について「現在の水準が当面継続する」と指摘。卵を使わないメニューに切り替えた食品メーカーも多く、需給ギャップが若干緩和さ

れているとした。

同日発表した同社の2023年3月期連結決算は、売上高が前期比19・9%増の208億9100万円、純利益は12・1%増の1億1600万円と、いずれも過去最高だった。藤井社長は「卵不足を受けていち早く輸入に踏み切った。安定供給で信頼を獲得したことで価格改定もでき、増収増益につながった」と話した。

(松本紗菜子)